

## 2021年度事業計画

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

### 1. 基本方針

2021年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から74年目を迎えます。

新年度も当協会は、引き続き大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、古くから活動を行う大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団運営等の公益事業の費用に充当していきたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、本年度は特に新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底しながら、昨年度コロナ禍で縮小を余儀なくされた公演数、公演入場者数、各種会員数、会館利用者数等の回復、常態化を目指して努力を重ねるとともに、ネット配信など新たな収益源の確保にもトライし、財政的にも安定した協会運営を目指してまいりたいと考えております。

なお、弊楽団は、2018年4月より第三代音楽監督に尾高忠明氏を迎え、定期演奏会をはじめ、ベートーヴェンやブラームス、チャイコフスキーの交響曲全曲演奏会等の自主公演を通じて、芸術的価値の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」作りを目指してまいりました。

また、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等に努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2021年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の再構築と拡大を進めてまいります。

## (1)自立に向けた収益基盤の再構築

2021年度は、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーに続き、「ドヴォルザーク・セレクション」を開催するとともに、2020年度は感染症の影響により中止となった東京定期演奏会を開催いたします。また、例年4公演の親子のためのオーケストラ体験教室は、感染症対策の観点から「夏休みファミリーコンサート」に衣替えし2公演で開催いたします。そのため、自主公演は、37公演となる見込みです。また、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、例年比約30%減少の年間49公演を見込み、合計の年間公演数は、88公演の計画となっております。

1. 自 主 公 演 ( 37公演 )		
公 演 名	会 場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
ドヴォルザーク・セレクション	ザ・シンフォニーホール	3
マチネ・シンフォニー Vol.25・26	ザ・シンフォニーホール	2
ソフレ・シンフォニー Vol.17・18	ザ・シンフォニーホール	2
夏休みファミリーコンサート	大阪フィルハーモニー会館	2
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	びわ湖ホール	1
3大交響曲の夕べ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第9シンフォニーの夕べ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
2. 依 頼 公 演 ( 51公演 )		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		49公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2公演

定期演奏会は演奏技術に磨きをかけ、コアなクラシックファンだけでなく、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の個性と実力をアピールするとともに、音楽的な高みを目指すシリーズとなっています。2021年度は21世紀のオーケストラとして演奏すべき作品をバランス良く取り上げることに留意し、古典から近現代の作品まで邦人作品を含め幅広い演目に挑戦してまいります。その中で弊楽団としましては、尾高監督就任当初より培ってきた基礎的なアンサンブル能力や表現力を更に発展させ、伝統の

「大フィル・サウンド」を進化／深化させていきたいと考えております。

また、一昨年好評を博し大きな反響を得たシャルル・デュトワを再招聘する他、沖澤のどか、アンガス・ウェブスターといった若いアーティストを起用する等、ヴァラエティに富んだ指揮者、独奏者を招いており、幅広い層の皆さまに音楽の素晴らしさをお届けできると考えております。

また東京定期演奏会では、大阪フィルの代表的なレパートリーであるブルックナーの交響曲から、「第5番」を取り上げ、進化をつづけている「尾高&大フィル」の実力をしっかりアピールしてまいります。

その他の自主演奏会では、昨年度のチャイコフスキーに続きドヴォルザークの作品を採り上げます。3つの交響曲をメインに据え、代表的な協奏曲と序曲三部を配し、馴染みの深いドヴォルザークの新たな魅力を掘り下げます。

また、「名曲シリーズ」の一環として開催を続けております「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」につきましては、初めて管弦楽に接する方が「オーケストラって楽しい、面白い」と興味を抱くことのできる作品を提供いたします。尚、2017年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましては、ゴールデンウィークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず幅広い層にオーケストラ演奏の魅力をアピールし、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

以上の通り自主演奏会をより充実させることによってファン層の拡大を図るとともに、期中においても依頼公演の受注に努力し収益基盤の再構築を図ってまいります。

会費収入の増収に向けては、2015年度より新たに設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動頂いている他、法人会員については会員会社の協力も頂きながら組織的な対応を充実させることで、新たな会員獲得に取り組めます。また、寄付金につきましては、大口の遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集のチラシ折り込み等を通じた地道な努力とともに前年度チャレンジしたクラウドファンディングにもテーマや方法を工夫して取り組んでまいりたいと考えております。

## (2)オーケストラの体制整備

2022年3月まで契約期間を延長した3代目音楽監督の尾高忠明マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演

奏活動全般を総括して頂いております。

また、2016年度より「指揮者」を委嘱してきた角田鋼亮マエストロとの契約については、今年度で終了いたします。

楽団員の体制については、2020年2月末現在65名のところ、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、ソロ・コンサートマスターの崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の2名と契約を継続いたします。

### (3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去14回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また5万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、座席を指定した有料公演と無観客による演奏の動画配信に切り替え開催いたしました。今年度は従来通りのスタイルで「第15回」として9月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整を行っております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの3階席を学生席として25歳以下の学生の方々向けに1,000円という極めて安価にて提供しております。さらに、2018年度から「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。また、2017年度からは、この3階学生席をより有効に活用するため、小学生等のお子様と親子で一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売も行っております。

また社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生や様々な施設の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動を行っており、2021年度についても継続実施してまいります。

## 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600㎡)・市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)を、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を通じ、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

市民スタジオの貸室料金については、2019年10月の消費税変更に伴い改定を検討いたしました。周辺貸室施設においても料金の変更はなく、出来るだけ地域の皆様にも喜んでご利用頂けるように据置といたしました。今後も効率的な会館運営及び稼働率の維持・向上に努め、地域への貢献に寄与したいと考えております。

なお、竣工後30年が経過する大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

#### 4. 2021年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

##### (1) 外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

これまで旅行業者や企業向け福利厚生サービス提供企業等と提携し、同社が運営している会員向けサイト等で弊楽団の公演情報等の掲載を進めてまいりましたが、引き続き2021年度も、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充実を検討してまいります。また、企業のCSR活動やSDGsへの参画を通しての社会貢献及び来場者確保についても積極的に進めてまいります。

##### (2) 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年度は多くの演奏会が中止を余儀なくされました。2021年度につきましても状況を注視すると共に、演奏会場や大阪フィルハーモニー会館での感染予防対策を徹底し、お客さま及び従業員の安全を確保してまいります。

以上

2021年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)  
(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

2021年3月12日

(単位:円)

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	161,640,000	0	40,410,000	202,050,000
正会員受取会費	146,280,000	0	36,570,000	182,850,000
賛助会員受取会費	15,360,000	0	3,840,000	19,200,000
事業収益	441,708,000	0	0	441,708,000
公函料収益	237,775,000	0	0	237,775,000
広告料収益	45,000,000	0	0	45,000,000
入場料収益	123,525,000	0	0	123,525,000
使用料収益	7,000,000	0	0	7,000,000
その他事業収益	28,408,000	0	0	28,408,000
受取補助金等	69,633,000	0	0	69,633,000
公的補助金収入	69,633,000	0	0	69,633,000
寄附金収入	33,800,000	0	0	33,800,000
一般寄付金収入	33,800,000	0	0	33,800,000
雑収益	25,600,000	0	6,400,000	32,000,000
雑収益	25,600,000	0	6,400,000	32,000,000
経常収益計	732,381,000	0	46,810,000	779,191,000
(2) 経常費用				
事業費	882,573,767	1,319,616	0	883,893,383
役員報酬	1,193,400			1,193,400
給料手当	357,437,690	18,210		357,455,900
賞与	0	0		0
法定福利費	60,817,001	3,000		60,820,001
旅費交通費	51,609,583	5,258		51,614,841
出演費	169,180,830			169,180,830
音楽費	7,310,981			7,310,981
文芸費	2,309,353			2,309,353
諸謝金	2,387,000			2,387,000
会場費	72,485,800			72,485,800
楽器運搬費	8,433,000	0		8,433,000
外注費	5,000,000			5,000,000
宣伝費	5,473,000			5,473,000
印刷製本費	19,520,000			19,520,000
支払手数料	10,069,000			10,069,000
消耗品費	6,370,275	4,725		6,375,000
修繕費	2,700,700	34,900		2,735,600
賃借料	2,221,271	1,729		2,223,000
保険料	936,741	12,041		948,782
交際費	1,134,000			1,134,000
通信運搬費	4,525,278	3,522		4,528,800
光熱水料費	6,654,820	5,180		6,660,000
委託費	6,892,729	163,553		7,056,282
減価償却費	22,757,087	881,783		23,638,870
雑費	17,632,370	12,830		17,645,200
租税公課	25,519,336	0		25,519,336
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
賞与引当金繰入額	4,908,000	500		4,908,500
退職給付費用	2,591,022	▲ 2,115		2,588,907
				0
管理費	0	0	13,569,827	13,569,827
役員報酬			795,600	795,600
給料手当			2,003,100	2,003,100
賞与			0	0
法定福利費			329,999	329,999
旅費交通費			962,159	962,159
通信運搬費			503,200	503,200
印刷製本費			0	0
支払手数料			0	0
消耗品費			675,000	675,000
修繕費			64,400	64,400
賃借料			247,000	247,000
保険料			22,218	22,218
交際費			126,000	126,000
支払利息			100,000	100,000
光熱水料費			740,000	740,000
委託費			1,685,718	1,685,718
減価償却費			1,627,130	1,627,130
雑費			1,832,800	1,832,800
租税公課			1,631,064	1,631,064
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
賞与引当金繰入額			91,500	91,500
退職給付費用			▲ 189,061	▲ 189,061
経常費用計	882,573,767	1,319,616	13,569,827	897,463,210
当期経常増減額	▲ 150,192,767	▲ 1,319,616	33,240,173	▲ 118,272,210
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替面当期一般正味財産増減	▲ 150,192,767	▲ 1,319,616	33,240,173	▲ 118,272,210
他会計振替額			0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 150,192,767	▲ 1,319,616	33,240,173	▲ 118,272,210
一般正味財産期首残高	437,192,842	17,059,210	70,713,734	524,965,786
一般正味財産期末残高	287,000,075	15,739,594	103,953,907	406,693,576
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	287,000,075	15,739,594	103,953,907	406,693,576

2021年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（2021年4月1日～2022年3月31日）

2021年3月12日

（単位：円）

	2021年度予算	2020年度予算	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	202,050,000	210,020,000	▲ 7,970,000
正会員受取会費	182,850,000	188,420,000	▲ 5,570,000
賛助会員受取会費	19,200,000	21,600,000	▲ 2,400,000
事業収益	441,708,000	589,733,000	▲ 148,025,000
公債収益	237,775,000	307,921,000	▲ 70,146,000
広告料収益	45,000,000	45,000,000	0
入場料収益	123,525,000	208,404,000	▲ 84,879,000
使用料収益	7,000,000	14,500,000	▲ 7,500,000
その他事業収益	28,408,000	13,908,000	14,500,000
受取補助金等	69,633,000	104,000,000	▲ 34,367,000
公的補助金収入	69,633,000	104,000,000	▲ 34,367,000
寄附金収入	33,800,000	33,800,000	0
一般寄付金収入	33,800,000	33,800,000	0
雑収益	32,000,000	1,000,000	31,000,000
雑収益	32,000,000	1,000,000	31,000,000
経常収益計	779,191,000	938,553,000	▲ 159,362,000
(2) 経常費用			
事業費	883,893,383	953,568,859	△ 69,675,476
役員報酬	1,193,400	1,193,400	0
給料手当	357,455,900	367,955,900	△ 10,500,000
賞与	0	0	0
法定福利費	60,820,001	60,820,001	0
旅費交通費	51,614,841	64,930,916	△ 13,316,075
出張費	169,180,830	176,309,000	△ 7,128,170
音楽費	7,310,981	8,005,107	△ 694,126
文書費	2,309,353	3,111,566	△ 802,213
諸謝金	2,387,000	3,136,000	△ 749,000
会場費	72,485,800	75,922,000	△ 3,436,200
楽器運搬費	8,433,000	9,427,000	△ 994,000
外注費	5,000,000	5,000,000	0
宣伝費	5,473,000	5,474,000	△ 1,000
印刷製本費	19,520,000	19,880,000	△ 360,000
支払手数料	10,069,000	12,634,000	△ 2,565,000
消耗品費	6,375,000	2,338,950	4,036,050
修繕費	2,735,600	2,735,600	0
賃借料	2,223,000	2,238,314	△ 15,314
保険料	948,782	948,782	0
交際費	1,134,000	1,134,000	0
通信運搬費	4,528,800	3,697,296	831,504
光熱水費	6,660,000	6,705,880	△ 45,880
委託費	7,056,282	7,066,652	△ 10,370
減価償却費	23,638,870	24,177,875	△ 539,005
雑費	17,645,200	12,724,893	4,920,307
租税公課	25,519,336	32,242,366	△ 6,723,030
修繕引当金繰入額	4,678,000	0	4,678,000
賞与引当金繰入額	4,908,500	26,020,350	△ 21,111,850
退職給付費用	2,588,907	17,739,011	△ 15,150,104
管理費	13,569,827	10,415,838	3,153,989
役員報酬	795,600	795,600	0
給料手当	2,003,100	2,003,100	0
賞与	0	0	0
法定福利費	329,999	329,999	0
旅費交通費	962,159	1,196,914	△ 234,755
通信運搬費	503,200	382,704	120,496
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	675,000	211,050	463,950
修繕費	64,400	64,400	0
賃借料	247,000	231,686	15,314
保険料	22,218	22,218	0
交際費	126,000	126,000	0
支払利息	100,000	100,000	0
光熱水費	740,000	694,120	45,880
委託費	1,685,718	575,348	1,110,370
減価償却費	1,627,130	1,664,232	△ 37,102
雑費	1,832,800	1,198,107	634,693
租税公課	1,631,064	361,834	1,269,230
修繕引当金繰入額	322,000	0	322,000
賞与引当金繰入額	91,500	479,650	△ 388,150
退職給付費用	▲ 189,061	▲ 21,124	▲ 167,937
経常費用計	897,463,210	963,984,697	△ 66,521,487
当期経常増減額	▲ 118,272,210	▲ 25,431,697	▲ 92,840,513
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 118,272,210	▲ 25,431,697	▲ 92,840,513
一般正味財産期首残高	524,965,786	370,615,670	154,350,116
一般正味財産期末残高	406,693,576	345,183,973	61,509,603
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	406,693,576	345,183,973	61,509,603

(注1) 一般正味財産期首残高に関して、2021年度予算は2020年度決算見込み値を、2020年度予算は2019年度決算値を使用

(注2) 短期借入限度枠は300百万円とする